

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第一学年	学習指導について	基礎学力の向上を目指し、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力に応じた丁寧な指導に努める 具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる 家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す 朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る 放課後講座等で実力の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒授業アンケートで、「授業がわかりやすい」と回答する生徒の割合70%以上を目指す SSシートやキャリアパスポートの活用、こまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する 各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す 朝の読書タイムを継続的に実施する(時差登校中はSHR前の時間) 定期考査前の放課後講座等を開催し、参加を促す 	SSシートや担任によるこまめな個人面談により、生徒個々の状況を把握することができた。また、朝の読書タイムや放課後講座等を実施することで落ち着いた学習に取り組む姿勢を育成できた。	B	2年後の進路を見据え、具体的な目標を持たせること。諦めずに粘り強く努力することを継続して指導していきたい。	生徒の規範意識を高めるためにどのような取組を進めたのか。 チャイム1分前着席の徹底の他、遅刻や服装に関する指導を学年で統一して行うことにより、基本的な生活習慣の定着や自主性の向上を図った。
	生活指導について	規範意識を高め基本的な生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める 道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切にする生徒を育てる 生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる チャイム1分前着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う 行事の充実・部活動の加入率を上げ、社会で活躍するための力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを各学期に1回実施する 定期的な校内巡視を行う(黙食の徹底) 学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する 遅刻総数が、1学期100回以内、2学期150回以内になるように継続した指導を行う 何事にも全力で取り組む姿勢を養う 学年の部活加入率50%を目指す 	昨年度に続き、分散登校や時差登校等により今までのような遅刻総数の比較は難しい。ただ、1学期/61回、2学期/98回と目標を達成できたのは継続的な遅刻指導の成果と考える。	B A	問題行動や遅刻数は減少しているが、引き続き継続して積極的な指導を必要とする。	
	進路指導について	自分自身を客観的に見つめ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標を達成するために、計画的に粘り強く努力させる	<ul style="list-style-type: none"> 進路のしおり、総合学習、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく 進路指導部と連携し、基礎学力の向上はもとより、日々の生活習慣(挨拶・言葉遣い)が進路実現につながることを理解させる 	<ul style="list-style-type: none"> SSシートやキャリアパスポートを活用し、個々の生徒の状況を把握するとともに、こまめな進路指導を行う 基本的な生活習慣の確立が進路実現に欠かせないということを日々のHRで展開する 	年間を通じて継続的にキャリアパスポートの活用ができ、自らの進路について考えることができた。分掌と学年の進路担当が連携できた成果である。ただ、まだまだ自らの進路についての具体的な実感が少ない生徒が多い。さらに意識付けをしていく必要がある。	B	分掌と連携しながら、引き続きキャリア教育を実施していく。	
第二学年	学習指導について	基礎学力の定着に向け、学習習慣を身に付けさせ、積み残しのない学習を心掛ける	<ul style="list-style-type: none"> 翌年の進路決定を見据え、個に応じた具体的な目標・目的をもって学習させる 各教科の課題、長期休業中の提出物を未提出のままにすることなく、期限を守って提出させる 	<ul style="list-style-type: none"> 進路の方向性を定め、生徒自身に進捗を自覚させる 提出物一覧表を本人と共有し、自覚を促す 	1年次に比べ課題等の未提出者が減り、一定の学習習慣が身についた生徒が多い。しかし、担任や担当教員の粘り強い声かけによって成立しているケースが多いので、3年生に向けて主体的に取り組めるような展開が必要である。	A	定期的な個人面談と、その内容を保護者と共有できるシステムの構築。	
	生活指導について	遅刻欠席をしない 部活動の入部を促す	<ul style="list-style-type: none"> 本人はもとより、家庭と連携を取り合い、状況によっては保護者召喚や学年主任指導を行う 担任、クラブ顧問が協力し、部活動を体験することから始めさせ、部活動への加入率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 年間欠席総数10回、遅刻総数20回を超える生徒をなくす 学年の部活動加入率50%以上を目指す 	例外的な生徒を除き、欠席・遅刻総数は概ね達成できた。部活動に関しては加入率は50%を下回っているため、部活動を継続する楽しさ・大切さを伝える方法を考える事が必須である。	B	部活動に関しては、部活動の内容が保護者(家庭)に伝わり、家庭でも応援してもらえるような取り組みが必要である。例：部の通信発行や、大会などを告知するなど。	
	進路指導について	自己の進路を考え、逆算した行動をとる	<ul style="list-style-type: none"> 2年次現在での進路を考えさせ、ワークシートを用い、自己実現に向けて必要な学習や条件等を考えさせる 現在の自身の生活を振り返り、進路へ繋がった行動かを考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に提出させ、ワークシートの完成状況を確認する 系統立てて取り組んでいるかをワークシートを用いて確認しながら行う 	進路部の企画などにより、年度当初より自らの進路を考え出す生徒が多くなっている。今後は実現する為の具体的な道筋がかかるように進路指導を行う必要がある。	B	定期的な個人面談と、その内容を保護者と共有できるシステムの構築が必要である。進路指導を学校に一任しているケースが多く、家庭・学校・本人の温度差が大きいケースが多い。	
第三学年	学習指導について	基礎学力の向上を目指し、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力に応じた丁寧な指導に努める 具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる 家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す 朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る 進路指導部と連携しながら、放課後講座で実力の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒授業アンケートで、「授業がわかりやすい」と回答する生徒の割合70%以上を目指す SSシートやキャリアパスポートの活用、こまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する 各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す 朝の読書タイムを継続的に実施する 実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート結果(16科目)では、13科目の科目で「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合が平均88%であった SSシートやキャリアパスポートの活用、更にはこまめな個人面談を実施したことで生徒個々の目標を把握でき、進路決定にも役立った すべての科目において家庭学習課題を課していたが、その頻度は少ない結果となった 読書タイム並びに実力養成講座等は継続的に実施できた 	B	<ul style="list-style-type: none"> さらに分かり易い授業展開に向け、チョーク&トーク以外の授業形態の改善を探る取り組みが必要と考える SSシートやキャリアパスポート、個人面談については次年度も継続して活用・実施することが望ましいと考える 生徒自らで課題を克服することが分かり易い授業にも繋がるものと考えられるため、家庭学習の定着も含め、家庭学習課題を課すことが重要である 生徒個々の進路目標を早期に明確にするため、特に実力養成講座の開始については、新年度のスタートと同時に実施していく必要があると思 	
	生活指導について	規範意識を高め基本的な生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める 道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切にする生徒を育てる 生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる チャイム着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う 行事・部活動の充実をはかり、社会で活躍するための力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを各学期に1回実施する 定期的な校内巡視を行う 学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する 欠席・遅刻総数を前年度(第2学年次)比5割減を目指し指導を強化する 最高学年としての自覚を持ち、何事にも全力で取り組む姿勢を養う 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期にいじめアンケートを実施した 校内巡視については定期的且つ継続的に行うことができた 就職・進学決定に向けての最終学年として、規範意識の高い生徒が多く見受けられた 学年集会・道徳HRは各学期に実施できた 球技大会が実施できたことで自主的に活動できる場を提供できた 前年度と比べ、欠席総数では3割減となったものの、遅刻総数ではほぼかわらない結果となった 最終学年で進路目標も明確になったことで授業のみならずどのような場面においても真面目に取り組む姿が窺えた 	A B	新型コロナウイルス感染防止対策を進める中、校則以外の新たな約束事としての「新しい生活様式」を身に付けていく必要が急務の為、学年集会や道徳HR、校内巡視等は継続実施が望ましい	
	進路指導について	自分自身を客観的に見つめ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標を達成させるために、計画的に粘り強く努力させる	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく 各種検定試験、資格試験チャレンジ、オープンキャンパス参加等を働きかける 進路指導部や教務部と連携し、基礎学力の向上はもとより、実力と意欲の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> SSシートやキャリアパスポートを活用し、個々の生徒の状況を把握し、こまめな進路指導を行う 英検、漢検等資格検定を1つ以上持つ生徒の割合50%以上を目指す 実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める 各々の進学・就職達成を目標に、月1回以上の進路指導室活用を促すとともに、大学進学希望者・就職希望者のサポート体制を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> SSシートやキャリアパスポートを活用することで進路指導に役立った 資格検定を1つ以上持つ生徒は88名で、その割合は65%となった 実力養成講座等を継続的に実施したものの、参加率を高めるには至らなかった 4月以降で進路指導室を1回以上活用した生徒は91名(67%)であった 	B	キャリア教育の推進、更には進路実現を最終目標とする第3学年全ての生徒が進路指導室を利用していくことが望ましいため、入学以降1・2年生の段階で少人数毎にオリエンテーション等を工夫・実施することが、利用率の増加に繋がると思われる	